

# 伝統のしくみ

伝統には「しくみ」がある。マニュアル化できない作法やしきたり、技や道具の秘密。これらのしくみを紹介するシリーズ。

解説 / 中村良幸  
花巻市大迫総合支所長

2009年にユネスコの無形文化遺産に登録された「早池峰神楽」。岩手県花巻市大迫に500年以上も前から伝わる伝統芸能で、岳神楽、大償神楽の二つの神楽の総称だ。神楽で最も印象的な道具といえば、演目ごとに変わる「面」である。今回はこの早池峰神楽の面を紹介する特集号。

早池峰神楽は、演目が40番以上ある。すべての演目が面を付けて舞うわけではないが、1団体40面以上は持っていると思われる。500年以上の歴史があるといわれる岳神楽、大償神楽でも、その歴史を伝えるような古い面はほとんど残っていない。その理由の一つに、神が宿っていた古い面は、使わなくなると神社などに納めて焼却してもらい、手元に残すことはなかったからと言う。稀に、弟子神楽に古い面が残っている。

することもあるが、これは廃絶した団体から譲り受けたものなどと考えられる。現在は衣装や面の文化財的な価値が見直され、古い道具類も保存されることが多くなってきた。一面の種類をあげると、三番叟や山の神、猿田彦、天熊人、武内宿禰など独特な面もあるが、それ以外は男神、女神、荒神、悪神、翁、般若、殿方、女方、道化（狂言）、動物面などに分けられ、いくつかの舞で兼用して使われることが多い。特徴ある面をいくつか紹介したい。

様々な神楽面（総合文化財センター）



山の神面  
上 大償神楽 下 岳神楽

**山の神の面**  
山の神の面は早池峰神楽で最も特徴的な面である。岳神楽、大償神楽ともに赤面であるが、大償神楽の方は口を開けた「阿形の面」、岳神楽は口を閉じた「吽形の面」を用いる。他の演目の面は両神楽で大きな違いはみられないが、山の神面の違いは歴然としている。これは弟子神楽も当然それを倣っており、その団体の系譜を雄弁に物語るものである。



山の神舞（大償神楽）



上 善海坊 下 猿田彦

### 天狗面と狐面

大償神楽では天狗面が二種類あり、一つは「鞍馬」の舞で使われる牛若丸と戦う天狗の首領善海坊（甚海坊）が被る面で、鼻が短く反り上がっている。一方、「天孫降臨」の舞で登場し、天降りする天孫をお迎えに行く使者・猿田彦の面は、まっすぐに長く伸びた威厳のある立派な鼻をしている。

このような違いは、動物面にもあり、「五穀舞」で稲荷大明神となつて登場する狐はまさに威厳のある鼻先の伸びた怖い顔の狐面、一方、狂言で登場する人をだます狐は、ずる賢そうな顔をした狐面である。



狂言田植の面  
上 じさま 下 ばさま

### 狂言の面

神楽の面は丁寧に作られているが、狂言で使われる面は、観客の笑いをとるためユニークなものが多い。中には手先の器用な素人が作ったと思われる個性的な面も存在し、それらには、他の神楽衆が見ても、何の演目に使われるのか全くわからないものも多い。



上半邪神 下 邪神

### 三番叟の面

三番叟の面は、切り顎式の黒面である。「叟」は、老人のことであるため「黒翁の舞」ともいわれる。早池峰神楽では唯一顎の部分を持ち離して紐で結ぶ形となっており、三番叟とその裏舞である裏三番叟（真似三番叟）のみで使用される。



三番叟（岳神楽）

### 権現様

権現様を面に分類するにはいささか気が引けるが、面と同じく神が降臨するというで紹介したい。ただ、早池峰神楽では権現様に降りてくるのは『古事記』や『日本書紀』に登場する神々ではなく、地域に密着する早池峰の神である点が大きく異なっている。

こんな童歌が残っている。

岳の権現さん舌なし権現さん  
大償の権現さん耳なし権現さん

これは、岳神楽と大償神楽の権現様が雲南神社の場所で大喧嘩をし、岳の権現様が舌を、大償の権現様が耳を噛み切られてしまったというのである。\*霞場の争いが元となった



狂言 田植（大償神楽）



権現様 上 大償神楽 下 岳神楽

\*霞場 自分達の祈祷範囲のこと

### 鐘巻の般若（邪神）面

般若面といわれるものには二種類ある。これを用いる代表的な舞である「鐘巻」は、女人禁制の鐘巻寺に執念で参った女が、次第に邪神へと変貌していく様が見どころとなっている。この舞の中で、鐘に取り込まれた女が、鐘の中から登場する場面では、角が短く、顔がやや人間の面影を残している「半邪神」という般若面を付けている。しかし、いったん幕に入ってから再び荒々しく登場すると、その般若面は角も長く、口が裂けた恐ろしい形相となっている。このように、同じ般若面でも時間の経過によって使い分けているのである。

伝承であろうが、両神楽の関係を知らうえで興味深い。

岳神楽と大償神楽の権現様の違いを、岳権現は雄々しい顔をした雄獅子、大償権現は優しい顔立ちの雌獅子として「雌雄の関係」にあるとする人もいる。確かに違いはみられるが、山の神面の「阿吽」のようによく意識されてはおらず、弟子神楽の権現様もバラエティに富んでいるのである。

衣装や面など、これまで4回にわたって神楽の道具を紹介してきた。百聞は一見にしかず。大迫に足を運んで本物の神楽を見た時、この解説が参考になれば幸いである。



権現舞（早池峰神社例大祭）